

2011年度 決算説明会
決算・業績予想および経営方針

2012年5月11日



社長 十倉 雅和

目次

①	決算・業績予想	3
②	現在の重点課題	11
③	財務基盤の強化	13
④	次期中期経営計画に向けて	23
⑤	配当方針	39

1. 決算・業績予想



2011年度決算・2012年度業績予想

(単位: 億円)

	2011年度	2012年度	前期比
売上高	19,479	22,300	+2,821
営業利益	607	900	+293
持分法投資損益	20	160	+140
経常利益	507	950	+443
純利益	56	400	+344
ナフサ価格	54,900円/kl	65,000円/kl	
為替レート	79.08円/ドル	82.50円/ドル	
年間配当金	9円/株	9円/株	

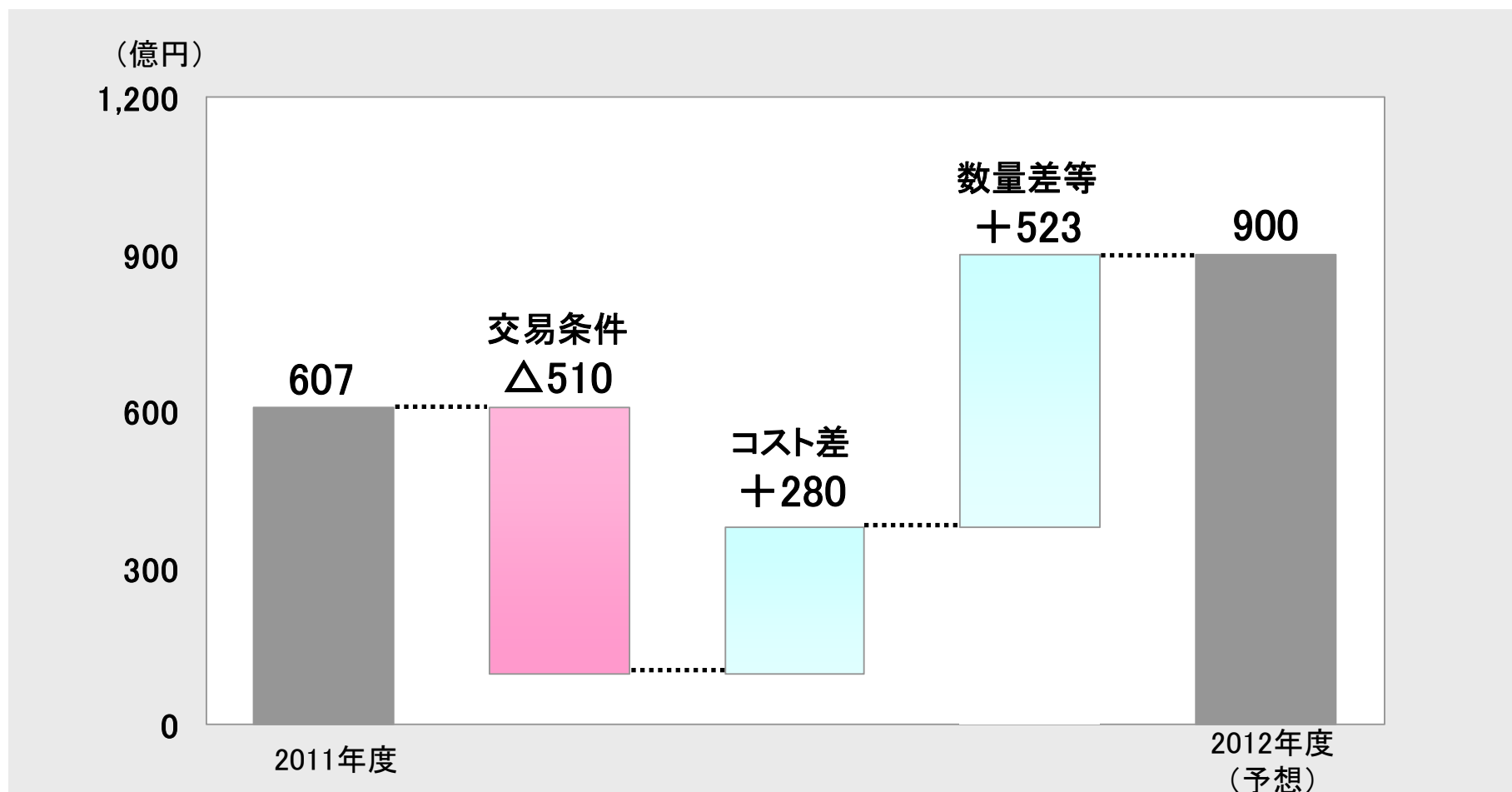
2012年度業績予想 売上高分析

(単位:億円)

	2011年度	2012年度	増減	売価差	数量差	邦貨 換算差
基礎化学	2,843	3,100	+257	+55	+182	+20
石油化学	6,724	8,300	+1,576	+480	+976	+120
情報電子化学	2,931	3,600	+669	△240	+859	+50
健康・ 農業関連事業	2,641	2,900	+259	+15	+244	0
医薬品	3,805	3,800	△5	△100	+55	+40
その他	534	600	+66	-	+66	0
連結合計	19,479	22,300	+2,821	+210	+2,381	+230
海外売上高	10,090	12,500	+2,410			
海外売上高比率	52%	56%	+4%			

2012年度業績予想 営業利益分析

2011年度 607億円→2012年度900億円
(+293億円)



2012年度業績予想 部門別営業利益

(単位:億円)

	2011年度	2012年度	増減	主な利益増減要因
基礎化学	93	90	△3	<ul style="list-style-type: none"> ・交易条件悪化 ・販売数量増加
石油化学	62	110	+48	<ul style="list-style-type: none"> ・販売数量増加 ・交易条件悪化
情報電子化学	110	240	+130	<ul style="list-style-type: none"> ・販売数量増加 ・合理化の進展 ・液晶部材の売価低下
健康・ 農業関連事業	265	340	+75	<ul style="list-style-type: none"> ・円高緩和による輸出手取り増加 ・販売数量増加
医薬品	209	270	+61	<ul style="list-style-type: none"> ・販売費・一般管理費の減少 ・販売数量増加 ・薬価改定による売価低下
その他	△132	△150	△18	
全社合計	607	900	+293	

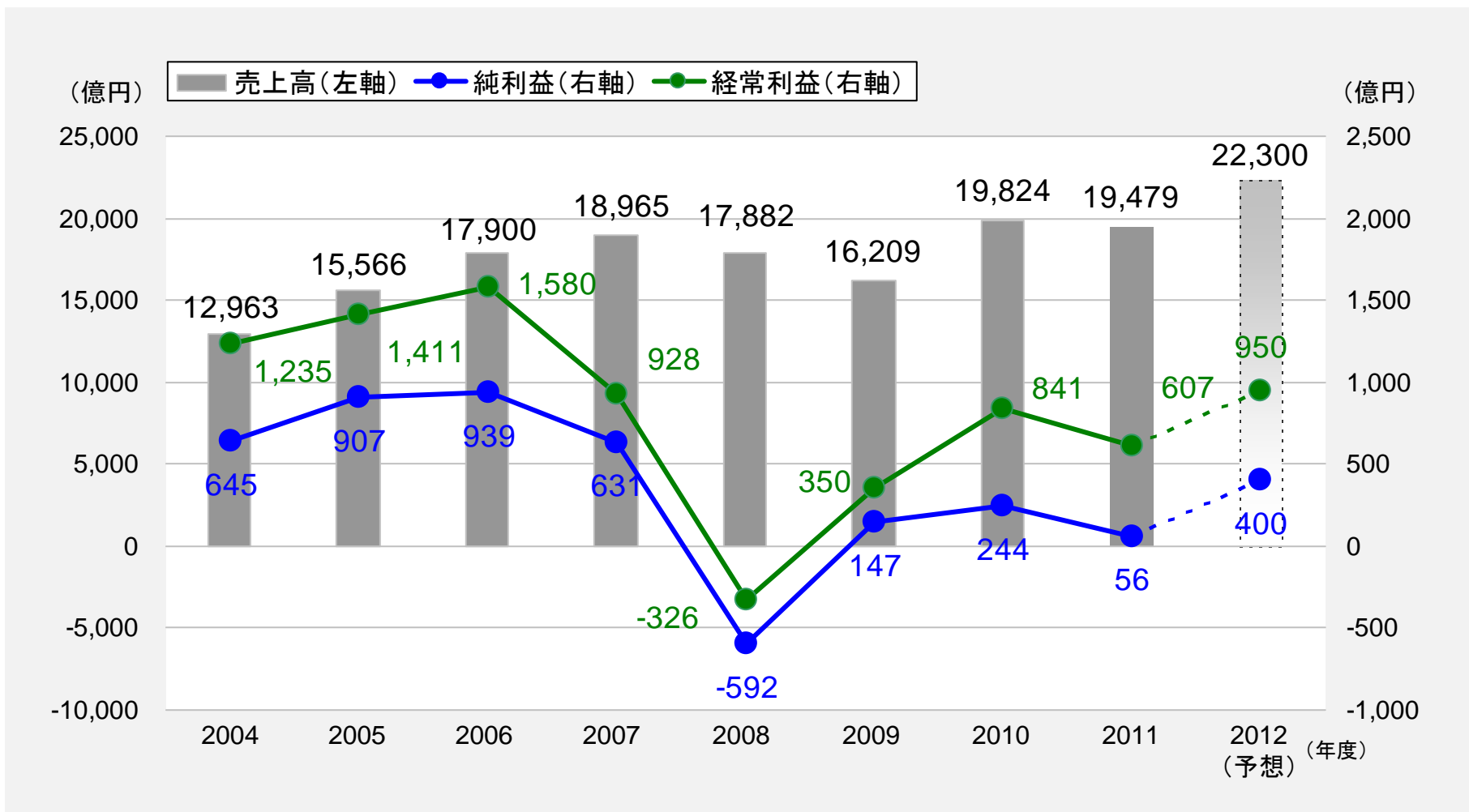
2011年度決算・2012年度業績予想

(単位:億円)

	2011年度	2012年度	前期比
売上高	19,479	22,300	+2,821
営業利益	607	900	+293
持分法投資損益	20	160	+140
経常利益	507	950	+443
純利益	56	400	+344
ナフサ価格	54,900円/kl	65,000円/kl	
為替レート	79.08円/ドル	82.50円/ドル	
年間配当金	9円/株	9円/株	

連結業績の推移

連結 売上高・経常利益・純利益推移



2012年度業績予想(中期経営計画対比)

(単位:億円)

	2012年度 中期経営計画	2012年度 業績予想	差異の主な要因
売上高	24,000	22,300	<ul style="list-style-type: none"> ● 経済環境の悪化に伴う需要大幅減少 ● 円高の進行
営業利益	1,900	900	
経常利益	2,200	950	
純利益	1,400	400	
ナフサ価格	50,000円/kl	65,000円/kl	
為替レート	90円/ドル	82.5円/ドル	

2. 現在の重点課題



現在の重点課題

これまで

抜本的な事業基盤の強化
(3大課題の克服)

ラービグ
計画

DSP発足
セプラコール
買収

情電部門
新設・拡大

現在

財務基盤の強化

(収益性改善)

(投資の厳選)

(資産効率向上)

これから

次世代事業の開発

環境
エネルギー

ライフ
サイエンス

ICT

グローバル化

グローバル経営の深化

2001年

2011年

2020～30年

3. 財務基盤の強化



財務基盤の強化

これまで

抜本的な事業基盤の強化
(3大課題の克服)

ラービグ
計画

DSP発足
セプラコール
買収

情電部門
新設・拡大

現在

財務基盤の強化

(収益性改善)

(投資の厳選)

(資産効率向上)

これから

次世代事業の開発

環境
エネルギー

ライフ
サイエンス

ICT

グローバル化

グローバル経営の深化

2001年

2011年

2020～30年

これまでの経営課題および事業戦略

重点課題

石油化学事業の
抜本的競争力強化

ライフサイエンス事業の
クリティカルマス確保

将来の核となる
新規事業の育成



大型事業戦略

ラービグPJの推進

大日本住友製薬の発足
サノビオン社買収

情報電子化学部門
の新設・事業拡大

投資額

約1,660億円
(出資・融資)
総事業費101億US\$

約2,190億円
(株式買増、買収)

約3,550億円
(設立以降10年間の
設備投資累計)



具体成果

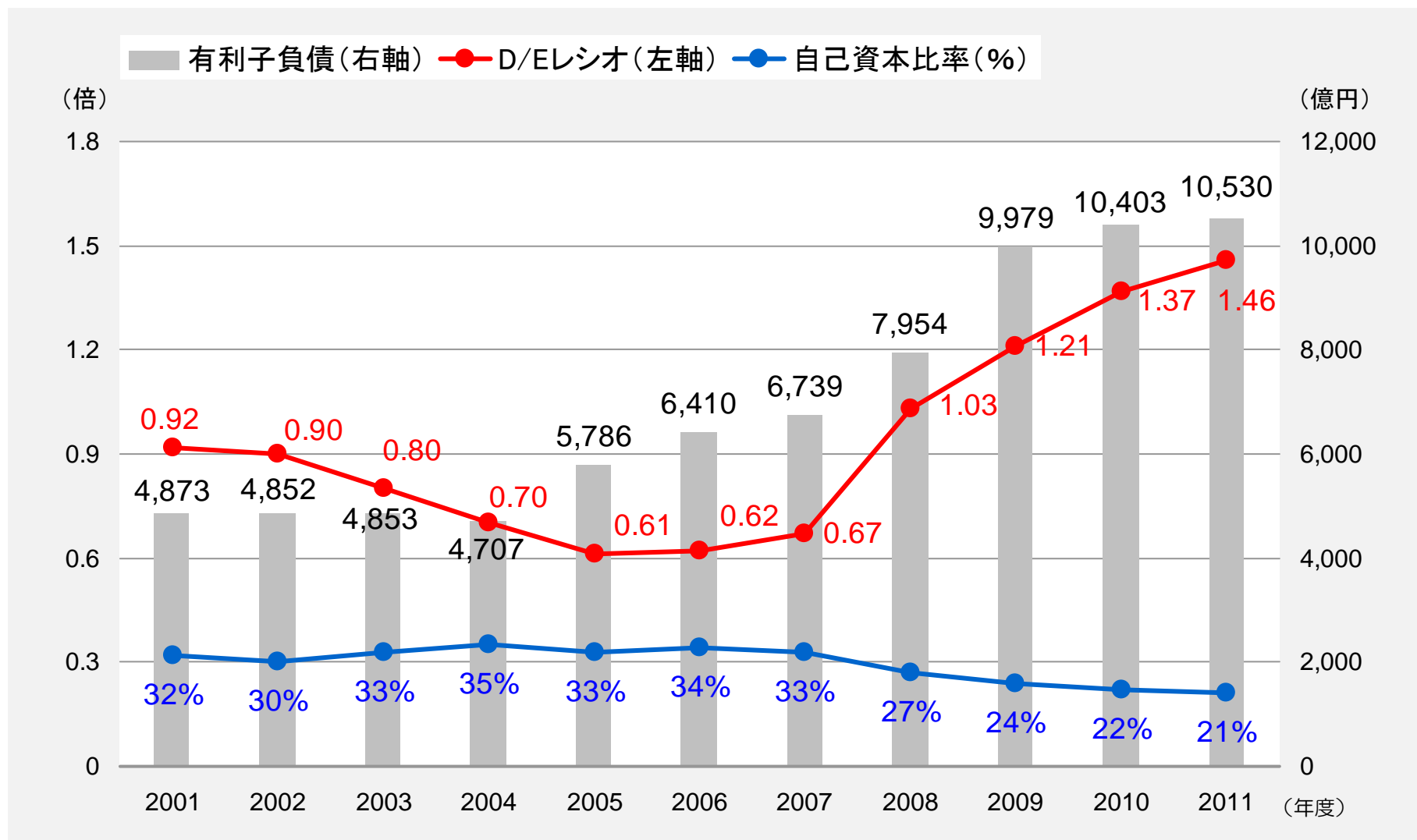
売上増
(00年度→10年度)

石油化学部門
(3,755億円→6,499億円)

医薬品部門
(1,567億円→3,659億円)

情報電子化学部門
(602億円→3,223億円)

財務安全性指標推移



財務基盤の強化

収益性改善

- 大型事業の早期収益化
- 不採算事業の整理・撤収
- 間接費の抜本的合理化
- 為替変動への抵抗力強化

投資の厳選

- 営業キャッシュ・フローの一定範囲内

資産効率向上

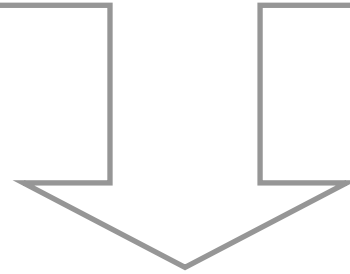
- キャッシュコンバージョンサイクル短縮

財務基盤の強化

- <2015年度末までの目標>
- 有利子負債残高 9,000億円未満
 - D/Eレシオ 0.9倍未満

攻めの経営・戦略の自由度確保

グローバル化を支えるための本社固定費増加(含む研究費)



本社固定費を中心に間接費を2015年度までに150億円削減
(2011年度比、全体の約15%)

研究費の効率化
(生産性向上)

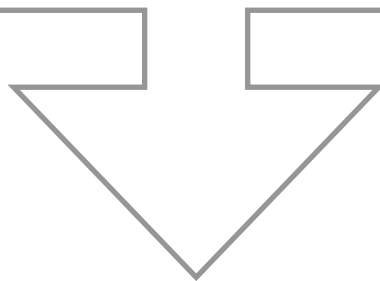
サービス機能の効率化
(管理部門機能のシェアード
サービス、アウトソーシング)

業務の効率化

海外生産の拡大

外貨建収支のアンバランスの緩和

(偏光板等の原料のドル建購入推進等)



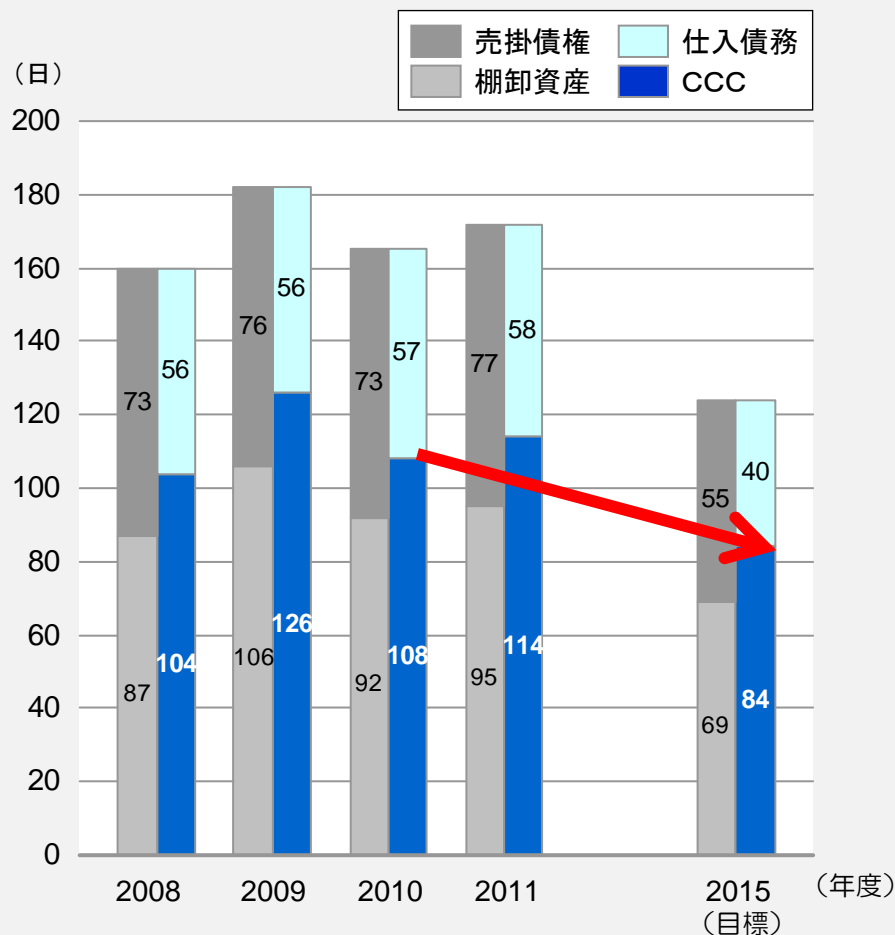
為替感応度(1円/USD変動)を半減

営業利益 40億円強/年→20億円強/年

資産効率向上: キャッシュコンバージョンサイクル(CCC)の短縮

$$\text{CCC(日)} = \text{売掛債権回転期間} + \text{棚卸資産回転期間} - \text{仕入債務回転期間}$$

当社CCC日数推移



取扱内容

- 売掛回収サイト短縮
- 在庫の縮減・適正化
- 買掛支払サイト延長

目標

**2015年度までにCCC
▲25%減(2010年度比)**

CCC改善効果

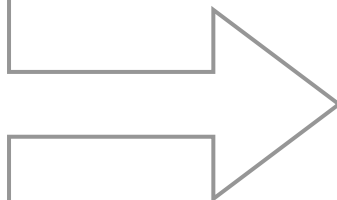
**2011~2015年度合計
1,300億円**

財務基盤強化の目標数値

● 有利子負債残高

2011年度末

10,530億円



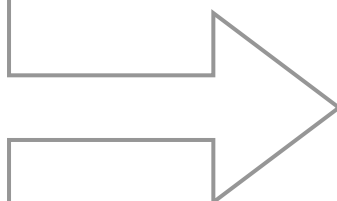
2015年度末までに

9,000億円未満

● D/Eレシオ

2011年度末

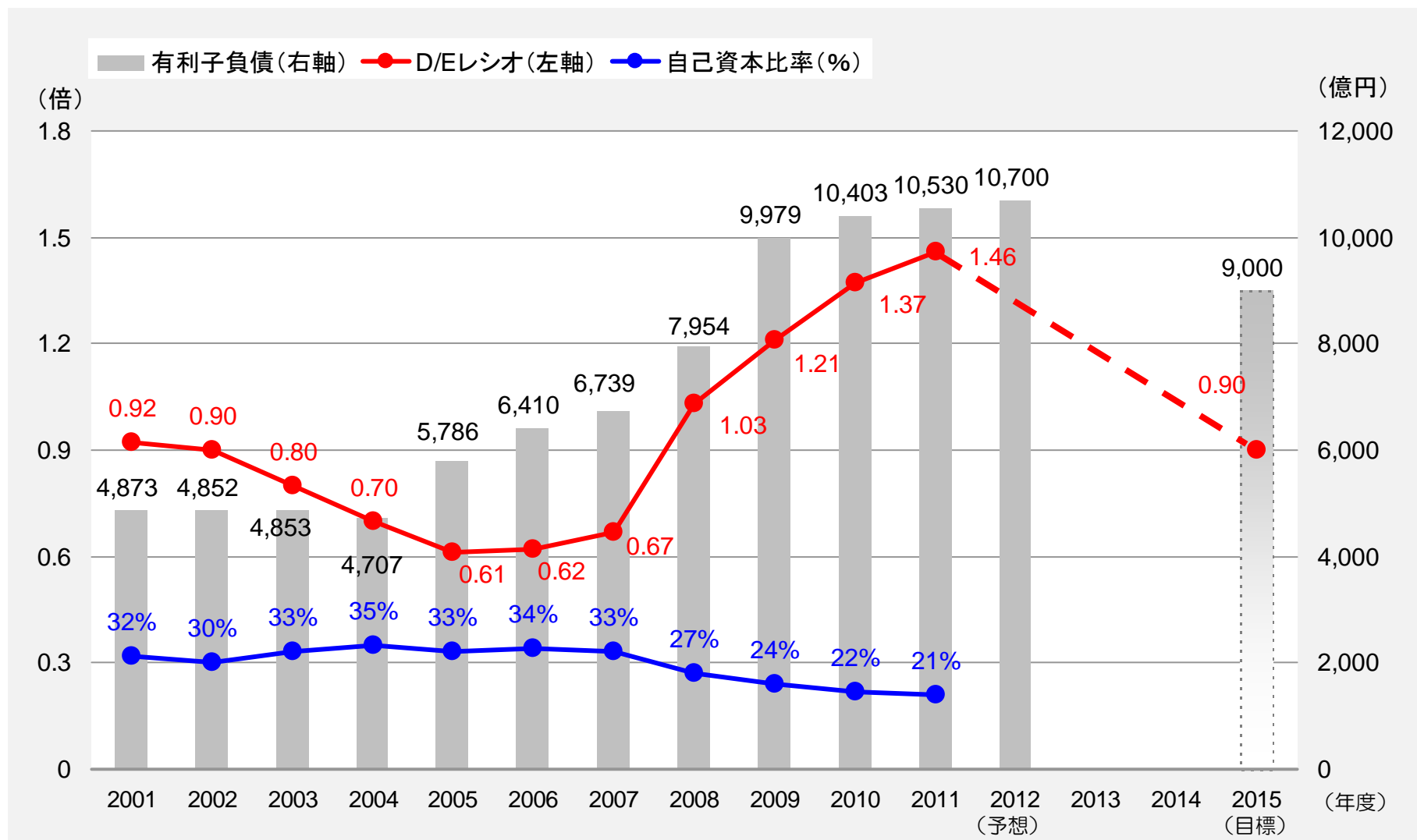
1.5倍



2015年度末までに

0.9倍未満

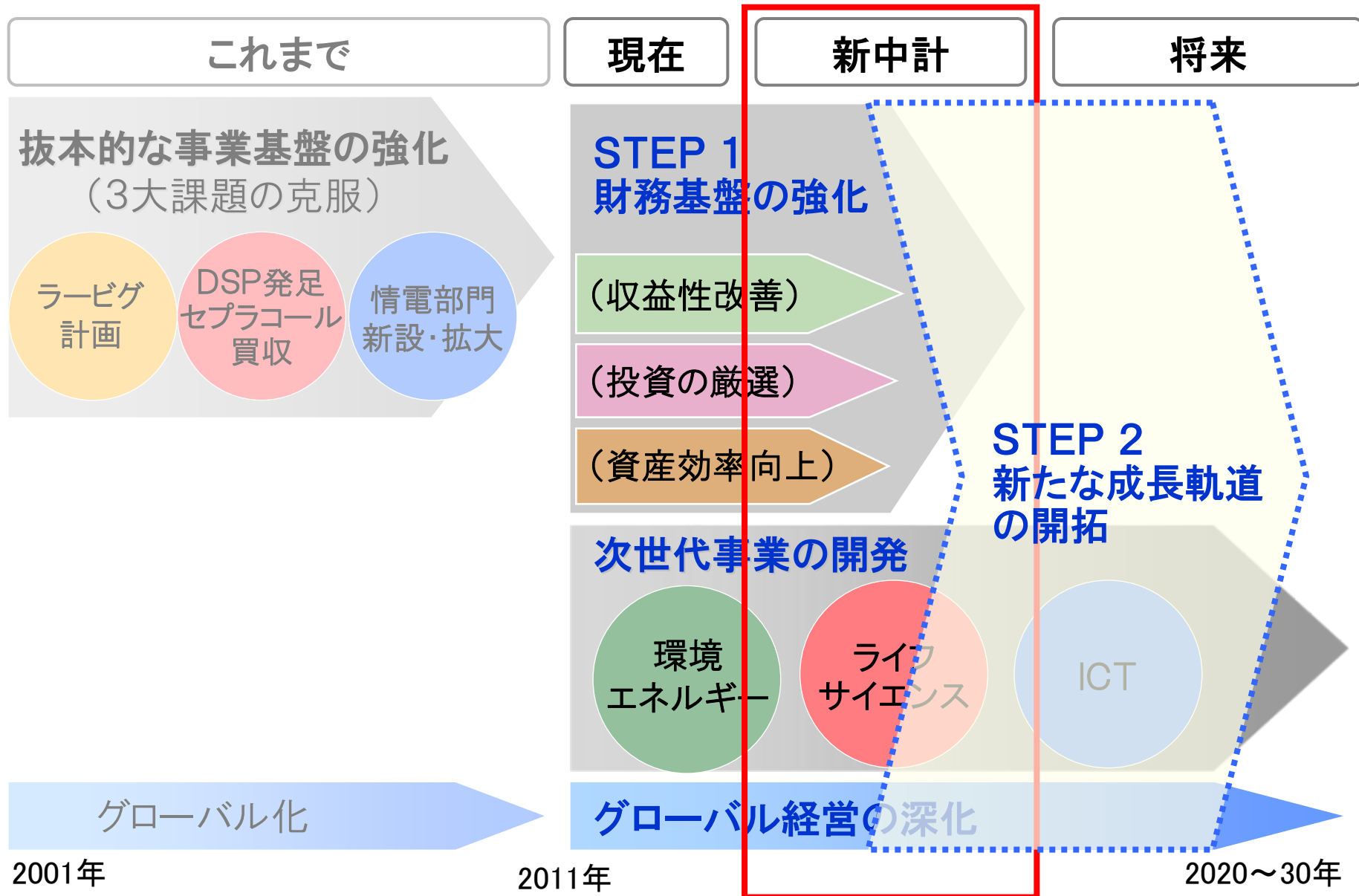
財務安全性指標推移



4. 次期中期経営計画に向けて



次期中期経営計画の位置付け



次期中期経営計画策定の考え方

現在

新中計

将来

STEP 1 財務基盤の強化(短期的課題)

(収益性改善)

- 大型事業の早期収益化
- 不採算事業の整理・撤収
- 間接費の抜本的合理化
- 為替変動への抵抗力強化

(投資の厳選)

- 営業キャッシュ・フローの一定範囲内

(資産効率向上)

- キャッシュコンバージョンサイクル短縮

STEP 2
新たな成長軌道
の開拓

(成長分野への
経営資源集中)

(次世代事業の
早期確立)

次世代事業の開発(中長期的課題)

グローバル経営の深化(継続的課題)

次世代事業の開発(中長期的課題)



持続可能な社会の発展に貢献

環境
エネルギー

ライフ
サイエンス

ICT

グローバルな課題の解決に貢献する製品の提供＝次世代事業の確立

6つのコア技術の活用・融合

精密加工

有機・
高分子材料
機能設計

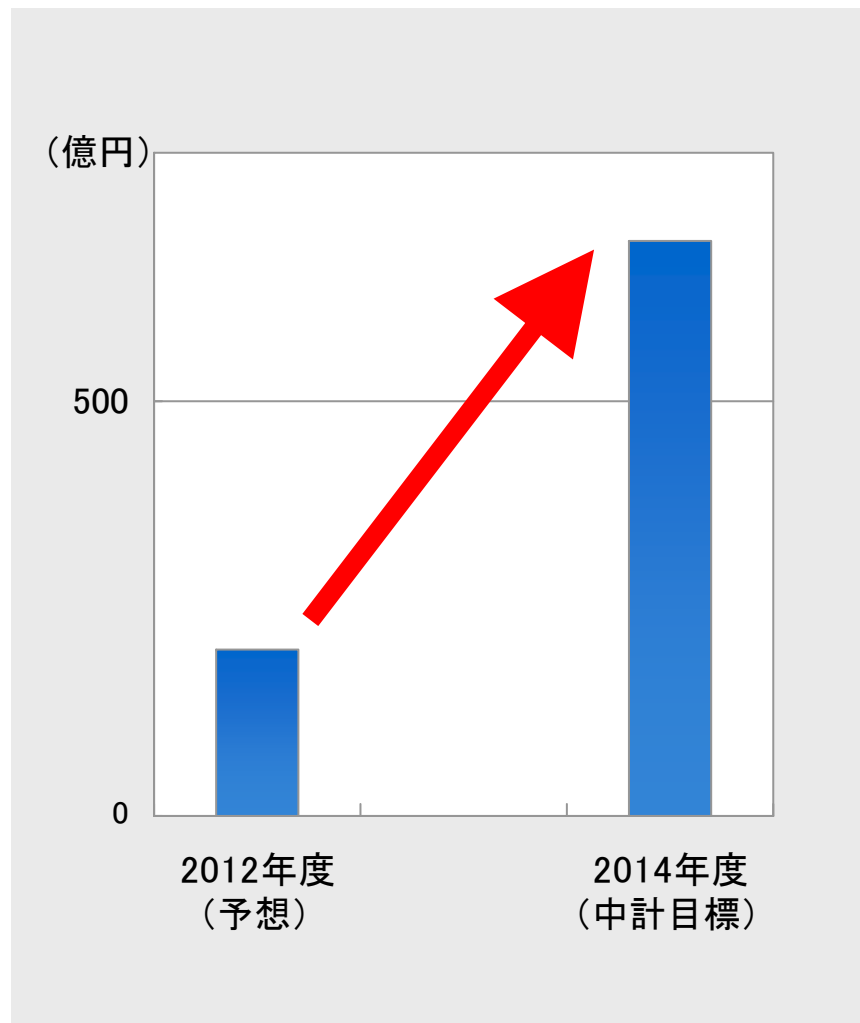
無機材料
機能設計

デバイス
設計

ゲノム科学

触媒設計

ラツーダ 米国売上予想



今後の適用範囲と販売地域の拡大

統合失調症

- カナダ : 2011年6月申請
- 日本 : 新規第Ⅲ相試験開始
- 中国 : 2011年9月治験届け提出
- 欧州 : 第Ⅲ相段階(武田薬品と共同開発)

統合失調症(上限用量追加)

- 米国 : 2011年6月申請
2012年4月承認

双極性障害うつ

- 米国 : 2012年適応追加申請
2013年追加効能取得予定

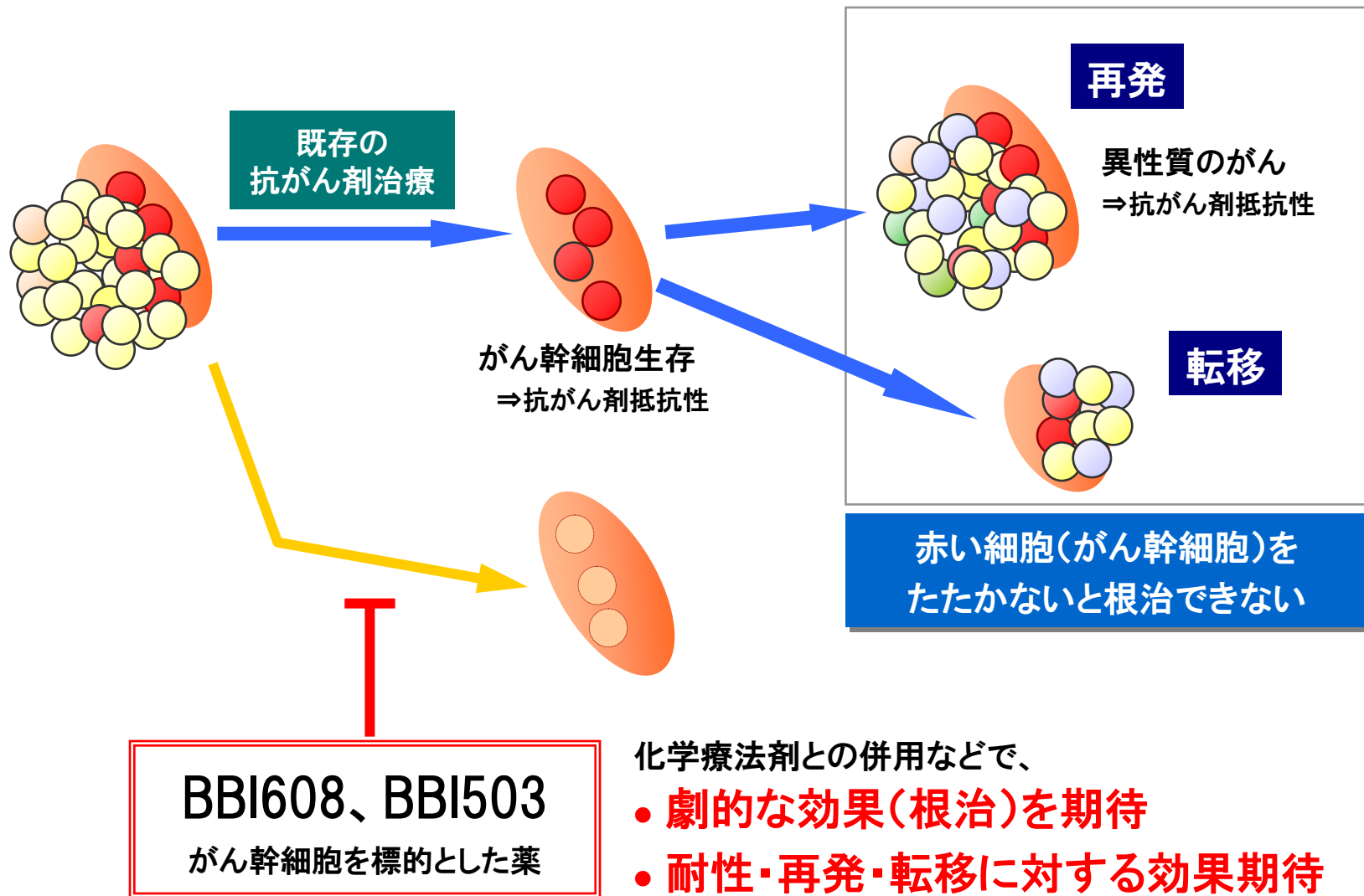
双極性メンテナンス

- 米国・欧州等 : 2011年2Q第Ⅲ相試験開始

大うつ(混合症状)

- 米国 : 2011年2Q第Ⅲ相試験開始

ライフサイエンス: BBI608、BBI503作用メカニズム概要



ライフサイエンス: BBI608、BBI503の特徴



BBI608

- First-in classの分子標的薬
(低分子化合物、経口投与)
- がん幹細胞およびがん細胞に対して細胞増殖抑制・細胞死を誘導する
- 化学療法剤などとの併用により高い有効性を示し、高い安全性も確認済み

BBI503

- First-in classの分子標的薬
(低分子化合物、経口投与)
- BBI608とは異なる作用メカニズムで作用する
- がん幹細胞およびがん細胞に対して細胞増殖抑制・細胞死を誘導する
- 化学療法剤などとの併用による高い有効性と、高い安全性を期待する薬剤

開発スケジュール

製品名	目標適応症	前臨床	Phase1	Phase2	Phase3
BBI608	結腸直腸がん(2 nd /3 rd line、単剤)			P3準備中	
	結腸直腸がん(2 nd /3 rd line、併用)		P2実施中		
	結腸直腸がん(1 st line、併用)		P1b計画中		
	固形がん(2 nd /3 rd line、Paclitaxel併用)		P1b/2実施中		
BBI503	固形がん(安全性試験、単剤)		P1実施中		

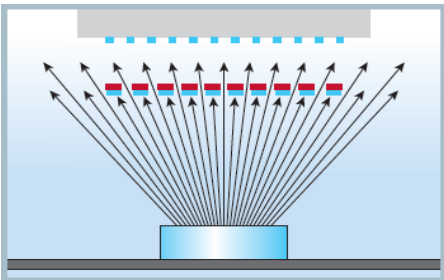
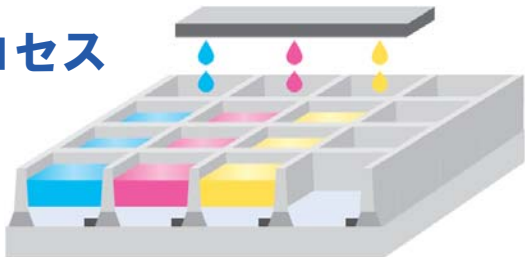
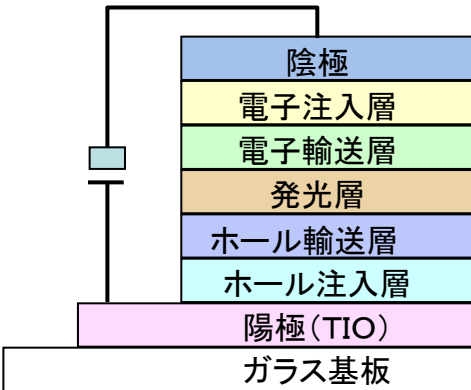
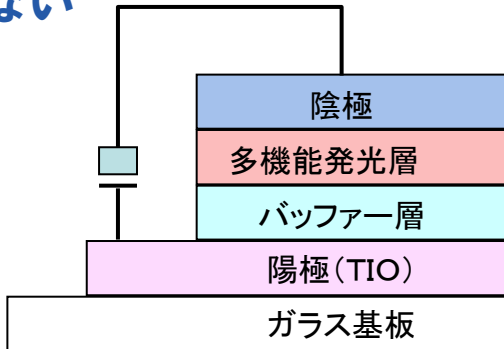
最速、2015年
北米上市が
目標

プリンティッド・エレクトロニクスへの展開



ディスプレイ用高分子有機EL発光材

高分子塗布系は、装置とプロセスの両面で低コスト化が可能

	低分子有機EL	高分子有機EL
設備	<p>複数の蒸着室が必要な真空蒸着装置</p>	<p>各種印刷装置を用途に応じて採用 インクジェット、スリットダイコーダー等</p>
プロセス	<p>ドライプロセス 真空蒸着、 転写</p> 	<p>ウェットプロセス 印刷</p> 
構造	<p>層数が多い</p> 	<p>層数が少ない</p> 

ライト・アンド・ビルディング展へ初出展

中間色を単層で塗ることができるという高分子有機EL材料の特長を活かし、60色の繊細な色合いのパネルによる高分子有機EL照明を展示

デザインは、日本を代表する世界的照明デザイナー石井幹子氏



会期 2012年4月15日(日)～20日(金)

場所 ドイツ メッセ・フランクフルト (Messe Frankfurt)

概要 ライト・アンド・ビルディング展は、2年に一度開催される、欧州最大の照明や建築技術の展示会

グローバル経営の深化（継続的課題）



グローバル経営の深化

基礎化学

(シンガポール)
メタクリル樹脂増強
(ポーランド)
DPF工場建設

情報電子化学

(韓国)
タッチパネルセンサー設備新設
サファイア基板合併設立
(中国)
サプライチェーン構築

医薬

(米国)
ラソーダ販売
BBI社買収
(欧州)
ラソーダの武田薬品との提携

石油化学

(シンガポール)
S-SBR新プラント建設
(サウジアラビア)
ラービグ・プロジェクト・フェーズⅡ検討

健康・農業化学

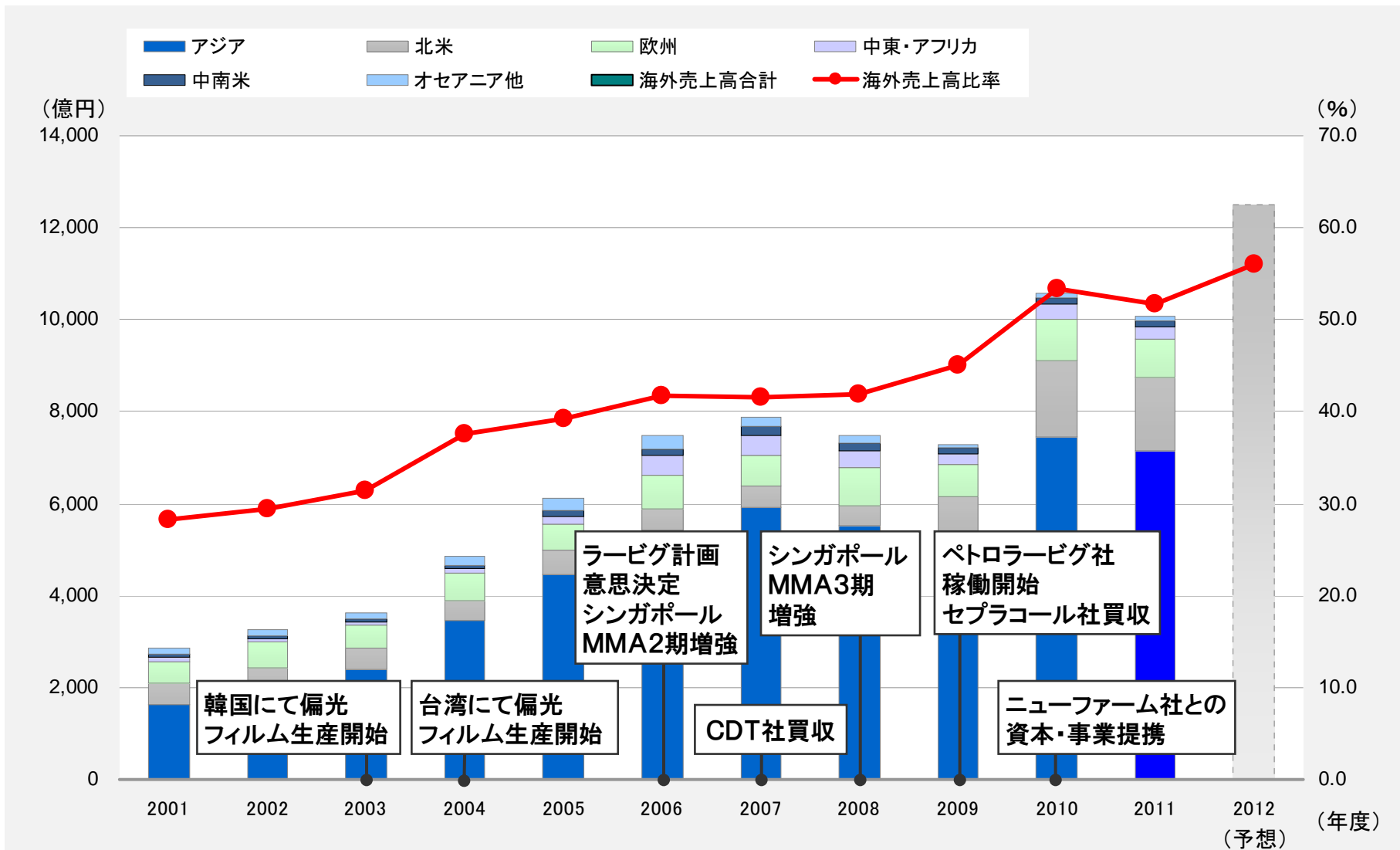
(豪州)
ニューファームとの資本・業務提携
(米国)
モンサントとの業務提携

2011年度
40%

海外生産高

海外売上高推移

参考：海外生産高比率 2011年度 40%



海外比率

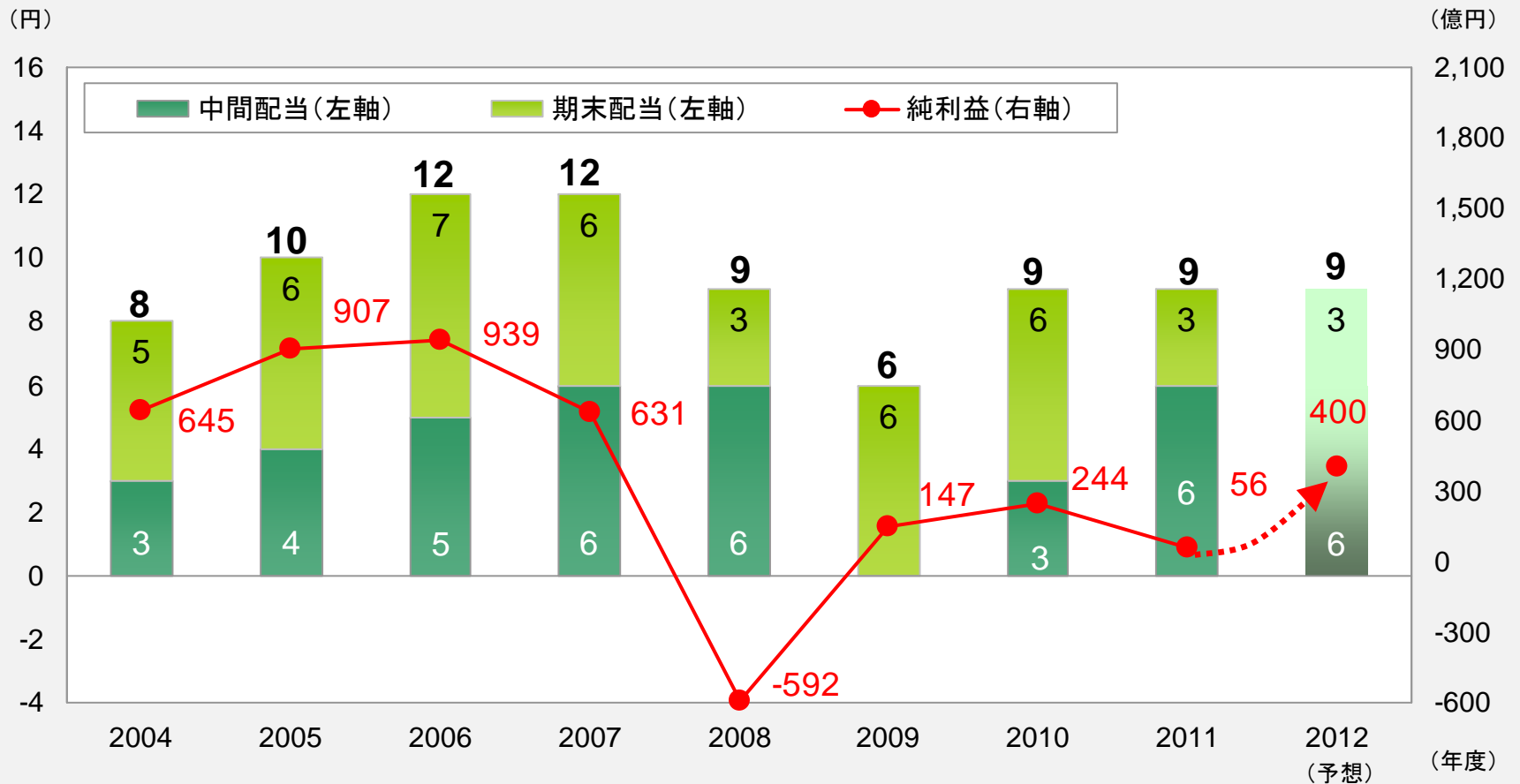
	2010年度 実績	2011年度 実績	2012年度 予想
海外売上高比率	53%	52%	56%
海外生産高比率	40%	40%	43%
海外人員比率	38%	39%	40%

5. 配当方針



配当方針

当社は、剰余金の配当の決定にあたり、株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、各期の業績、配当性向ならびに以後の事業展開に必要な内部留保の水準等を総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本としております。



Creative Hybrid Chemistry



(参考情報)2011年度決算概要



2011年度 業績

(単位:億円)

	2010年度	2011年度	前期比
売上高	19,824	19,479	△346
営業利益	880	607	△273
持分法投資損益	108	20	△88
経常利益	841	507	△334
特別損益	△84	△268	△184
法人税等	△348	△83	+265
少数株主利益	△164	△101	+64
純利益	244	56	△188
ナフサ価格	47,500円/kl	54,900円/kl	
為替レート	85.74円/ドル	79.08円/ドル	
年間配当金	9円/株	9円/株	

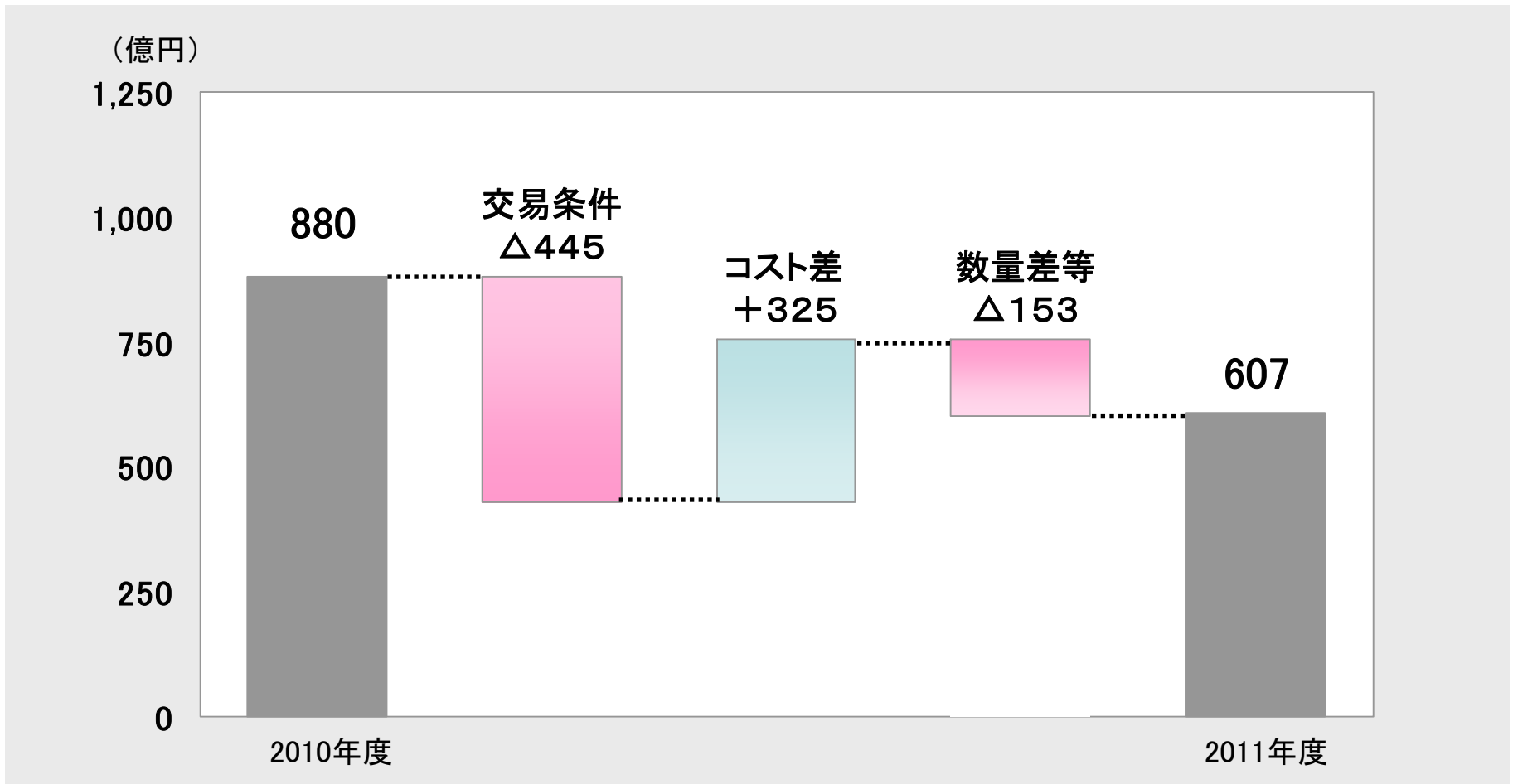
2011年度 売上高分析

(単位:億円)

	2010年度	2011年度	増減	売価差	数量差	邦貨 換算差
基礎化学	3,023	2,843	△179	+65	△200	△44
石油化学	6,499	6,724	+225	+790	△303	△261
情報電子化学	3,223	2,931	△292	△335	+168	△125
健康・ 農業関連事業	2,508	2,641	+133	0	+231	△97
医薬品	4,106	3,805	△301	-	△199	△102
その他	466	534	+68	-	+68	0
連結合計	19,824	19,479	△346	+520	△236	△629
海外売上高	10,567	10,090	△477			
海外売上高比率	53%	52%	△1%			

2011年度 営業利益分析

2010年度 880億円 → 2011年度 607億円
($\Delta 273$ 億円)



2011年度 部門別営業利益

(単位:億円)

	2010年度	2011年度	増減	主な利益増減要因
基礎化学	206	93	△113	<ul style="list-style-type: none"> • 交易条件悪化 • 販売数量減少
石油化学	111	62	△50	<ul style="list-style-type: none"> • 販売数量減少
情報電子化学	261	110	△152	<ul style="list-style-type: none"> • 液晶部材の売価低下
健康・ 農業関連事業	233	265	+32	<ul style="list-style-type: none"> • 販売数量増加
医薬品	287	209	△77	<ul style="list-style-type: none"> • 開発・販売権収入一時金減少
その他	△219	△132	+87	<ul style="list-style-type: none"> • 電力需給逼迫で、売電量増加
全社合計	880	607	△273	

注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。